

3年間を見通した特色ある指導事例 技術・家庭科(家庭分野)

茨城県中央地区(2013/02/15)

★87. 5時間の特色

生活の自立から共生へと段階的に視野を広げる指導計画である。自分のことから家族、家族から地域へと段階的に視野を広げ、自分や家族のために進んでよりよい生活を工夫していくことをねらいとして位置づけた授業展開である。

第1学年の最初にA(1)を履修し、小学校の家庭科の学習内容を振り返りながら、家庭分野の学習の意義を明確にするとともに、3学年間の学習の見直しをもてるようにする。また、第1学年では、自分に一番近い体に関することを学習し、第2学年では、自分の体の外側へと展開する。自分の生活を見つめ直し、生活の自立を目指して、内容Bと内容Cを履修させる。その際、内容Dについても関連して履修させ、食生活とのかかわりの中から消費生活や環境とのかかわりを具体的に考えられるようにする。環境に関する内容D(2)は、食生活と自立のB(2)ウ、B(3)、C(1)イウ、C(3)にも関連付けることで、消費生活、環境の面からも考えられるようにする。

第3学年では、家族や地域のことを考えてよりよい生活を創造することを目指して、内容Aを履修させる。

1年生(週1時間で実施)

時間	題材(・学習内容)	指導要領 内容項
1	ガイダンス ・家庭分野の学習を始めよう	A(1)ア
2	・自分の成長と家族	
3	始めよう！健康生活(食生活と栄養)	B(1)アイ
4	・食事の役割を考えよう (食事の点検、心身の健康によい食習慣)	
5	・栄養素の種類と働きを知ろう	
6	(栄養素の種類と働き、体内での水の働き、中学生に必要な栄養素の特徴)	
7		
8	あなたの食生活は大丈夫？ ・食品に含まれる栄養素を知ろう	B(2)アイウ
9	・何をどのくらい食べればよいか考えよう(6つの食品群に分類、カード活用)	
10	・バランスのとれた食生活を考えよう	
11	(1日分の献立の作成)	
12	・食品の選び方を考えよう (生鮮食品と加工食品、旬の食材、表示、食品添加物、食品の保存方法、食品の選択)。	
13		
14		
15		
16		
17	賢く健康な食事を作ろう！ ・日常食の調理をしよう	B(3)アイ
18	魚を使った調理	
19	肉を使った調理	
20	野菜を使った調理	
21	・地域の食文化を知ろう 地域の食材や季節の食材 地域の食文化 地域の食材をいかした日常食の調理	
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30	〇〇期の食事を探ろう ・食生活を取り巻く問題を把握しよう ・自分の食生活をよりよくする方法を考えよう (受験期の食事、試合前の食事等)	B(3)ウ
31		
32		
33	見直そう！健康生活 ・自分や家族の食生活の改善点や課題を見付けよう	
34	・課題解決を目指す方法を考えよう ・各自で実践したことをまとめ、発表しよう	
35		

2年生(週1時間で実施)

時間	題材(・学習内容)	指導要領 内容項	
36	簡単おしゃれ！衣生活 ・着る目的を考えよう	C(1)アイウ	
37	(衣服の動き、目的に応じた着方)		
38	・衣服の英美的な活用方法を考えよう(過不足の入手や処分 の仕方)		
39	・必要な衣服を選択しよう(表示、手入れ、適切な洗濯方法)		
40	・衣服の手入れをしよう(衣服の洗濯・補修、材料や状態に応じた手入れ方法)		
41	・よりよい衣生活を目指そう	C(2)アイ	
42	安全安心！住生活 ・住まいの役割とは何だろう		
43	・家族と住まいのかかわりを考えよう		
44	・安全に住むためにはどうしたらよいらう(家庭内自己とその原因、安全に住むための改善方法)		
45	・健康で快適な室内空間を考えよう		
46	・よりよい住生活を目指そう		
47	災害対策万全に！ ・地震対策体験レポートをつくらう		C(3)イ
48	・災害に備えた住まい方の工夫について考えよう		
49			
50			
51		C(3)ア	
52	私のために、あなたのために ・生活を豊かにするための工夫をしよう		
53	例 ティッシュケース ハーフパンツ 防災バッグ		
54			
55			
56			
57			
58			
59			
60			
61		D(1)アイ	
62	暮らし安全！消費生活 ・消費者としての自覚をもとう(消費行動、契約)		
63	・商品の選択と購入について考えよう(販売方法、支払い方法、物資・サービスの選択、購入・活用する際の注意点)		
64	・消費者の権利と責任を知ろう ・消費者トラブルを解決する方法を知ろう ・よりよい消費生活を目指そう		
65		D(2)ア	
66			
67			
68	見直そう！消費生活 ・生活と環境のかかわりについて考えよう (節約生活調べ、循環型社会)		
69			
70			

3年生(技・家で隔週で実施)

時間	題材(・学習内容)	指導要領 内容項
71	家族最高！ ・家庭や家族の機能、地域とのかかわりを考えよう	A(2)アイ
72	・家族関係をよりよくしていこう	
73		
74		
75	応援します！幼児の生活 ・成長を振り返ろう (自分の成長記録)	A(3)アイウ
76	・幼いころを振り返ろう (成長記録をもとに、幼いころの夢やエピソードをまとめる、かかわった人とのイメージマップづくり)	
77	・幼児の心身の発達と生活を考えよう (心身の発達の特徴、家族の役割、生活習慣)	
78	・幼児の生活と遊びを知ろう (遊びの意義、育つ力、遊び道具や場所、遊び道具の製作)	
79	・幼児と触れ合おう (幼稚園、保育所訪問)	
80	・子どもにとっての家族を考えよう	
81		
82		
83		
84		
85		
86		
87		
88		

配慮事項等：

・A(3)イでは、遊び道具や遊び場所について調べ、幼児の心身の発達を踏まえ、幼児が興味をもって楽しく遊べる遊び道具の製作を行う。A(3)ウでは、幼稚園訪問や保育所訪問、赤ちゃん触れ合い体験スクール事業などの体験学習が可能である。実施できない場合は、ビデオ、ロールプレイング等での対応をする。

・C(1)ウに関して、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れの材料として、制服の生地を扱うことも可能である。C(3)アでは、小・中・高の系統性を配慮し、学校の実態に応じた製作を行う。小学校【C(3)生活に役立つ物の製作】で履修した題材、製作した物を把握する必要がある。C(3)イでは、衣生活・住生活の課題をもち、よりよい解決方法を考えて実践する。

・D(1)、(2) 茨城県消費生活センターによる消費者教育の依頼、ビデオ借用、資料の請求等が可能である。

それぞれの内容の実施時間
A 19.5時間、B 33時間、C 26時間、D 9時間
課題と実践 B、C 6時間
※A～Dの内容について、関連を図るべき事項は、関連を図るようにする。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名 ※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	ガイダンス【家庭分野の学習を始めよう】 （2時間扱い）
	・家庭分野の学習を始めよう ・自分の成長と家族

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
A(1)ア	3学年間の学習に見通しをもち、自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて関心をもって学習活動に取り組もうとしている。			

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・家庭分野の学習を始めよう (1)	・小学校の学習を振り返り、3学年間の見通しをもって学習に取り組もうとしている。			
・自分の成長と家族 (1)	・自分の成長や生活は家族やそれにかかわる人々に支えられてきたことに気付いている。			

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

- 家庭分野の学習を始めよう
 - ・ 小学校で学んだことを4つの内容ごとに振り返させる。
 - ・ 自分でできるようになったことを確認する。小学校ごとに題材や学習内容に特徴があるので、教師・生徒が内容を確認・整理するとともに、3年間で学習する内容を確認し、将来の見通しをもったうえで学習目標を立て、一人一人発表し、学習への意欲を高める。
 - ・ 将来の自分像を記入させ、目標に向けて、自分はどのようなかわりをもち生活していったらよいのか考えさせる。
- 自分の成長と家族
 - ・ 中学校での自分の成長や生活が家族やそれに関わる人々に支えられてきたことに気付かせる。
 - ・ 家庭との関わりで、「今までの自分」・「今の自分」・「これからの自分」がどのようにかわって、これからどうすれば「よりよい生活」を送れるのか考えさせ、話し合いを行い、共有する。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名 ※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	始めよう！健康生活（食生活と栄養） <p style="text-align: center;">（ 5 時間扱い）</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の役割を考えよう（食事の点検，心身の健康に良い食習慣） ・ 栄養素の種類と働きを知ろう（栄養素の種類と働き，中学生に必要な栄養素の特徴）

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
B (1) ア, イ	中学生の食生活と栄養について関心をもって学習活動に取り組み，食生活をよりよくしようとしている。	中学生の食生活と栄養について課題を見付け，その解決方法を目指して工夫している。		中学生の食生活と栄養について理解し，基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は，3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・ 食事の役割を考えよう (2)	・ 自分の食生活に関心をもち，健康に良い食習慣について考え，日常生活で実践しようとしている。	・ 自分の食生活を振り返り，課題を見付け，健康に良い食習慣などについて考え，工夫している。		・ 食事の役割や健康に良い食習慣の重要性や中学生として望ましい食生活について理解している。
・ 栄養素の種類と働きを知ろう (3)	・ 中学生の栄養について関心をもち，食生活をよりよくしようとしている。	・ 自分の食生活と栄養について課題を見付け，これからの生活でどのように解決をできるか考え，工夫している。		・ 中学生に必要な栄養素の種類と働きについて理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ○ 食事の役割を考えよう <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事を中心と考えた1日の生活リズムを記録し，自分の食事のよい点や問題点に気付かせる。 ・ 教師側で生活リズムの例を取り上げ，そのまま継続するとどのような問題が起こりうるか，またどのような改善点があるか，話し合いを行い，自分の生活と比較，検討させる。 ・ 学習前と学習後での実践しようとする態度が高まったかを確認し，よりよい食生活にするためにはどうしたらよいか自己課題を考え，（休日や長期休業中などで実践，家族への協力依頼等）実践を継続させる。 ○ 栄養素の種類と働きを知ろう <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事摂取基準から成人と中学生の摂取基準の違いに気付かせ，中学生に必要な栄養の特徴を考えさせる。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名 ※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	あなたの食生活は大丈夫？ (9時間扱い)
	・食品に含まれる栄養素を知ろう ・何をどのくらい食べればよいか考えよう（6つの食品群に分類，カード活用） ・バランスのとれた食生活を考えよう（1日分の献立の作成） ・食品の選び方を考えよう（生鮮食品と加工食品，旬の食材，表示，食品添加物，食品の保存方法，食品の選択）。

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲 ・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識 ・理解
B（2） ア，イ，ウ	日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み，食生活をよりよくしようとしている。	日常生活の献立と食品の選び方について課題を見つけ，その解決を目指して工夫している。	食品の選び方に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	日常食の献立と食品の選び方について理解し，基礎的・基本的な知識を身につけている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は，3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・食品に含まれる栄養素を知ろう (2)	・食品の栄養的特質や中学生の一日に必要な食品の種類と概要に感心をもち，食品について調べたりしようとしている。			・食品の栄養素特質，食品群や食品摂取量の目安について理解している。
・何をどのくらい食べればよいか考えよう (2)	・中学生の一日分の食事のとり方に関心をもち，必要な栄養素を満たす食事のとり方をしようとしている。			・食品を食品群に分類したり，計量したりする活動を通して，中学生の1日に必要な食品の種類と概要について理解している。
・バランスのとれた食生活を考えよう（1日分の献立の作成） (3)		・中学生の一日分の献立について課題を見付け，必要な栄養素を満たすために料理や食品の組み合わせについて考え，工夫している。		・中学生に必要な栄養素を満たす1日分の献立の立て方について理解している。
・食品の選び方を考えよう (2)		・用途に応じた食品の選択について，収集・整理した情報を活用して考え，工夫している。	・身近な食品を選択するために必要な情報を収集・整理することができる。	・生鮮食品と加工食品の表示の意味と良否の見分け方について理解している。 ・食品の選択における観点について理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

○ 食品に含まれる栄養素を知ろう ・自分の好きな食べ物や日ごろよく食べる食品について調べ，発表する。
○ バランスの取れた食生活を考えよう ・1日分の献立をたて，グループ発表をし，班で相互評価をする。
○ 食品の選び方を考えよう ・グループごとに担当項目を決め，調べ学習を通してクラス全体で発表し意見交換をする。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名 ※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	賢く健康な食事を作ろう！	(13時間扱い)
	・日常食の調理をしよう ・地域の食文化を知ろう	

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲 ・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識 ・理解
B(3)ア, イ	日常食の調理と地域の食文化について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくするために実践しようとする。	日常食の調理と地域の食文化について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食文化の意義について理解するとともに日常食や地域の食材をいかした調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・日常食の調理をしよう (9) 調理室・道具の使い方 魚の調理 肉の調理 野菜の調理	・日常食の調理に関心をもち、調理技術を習得しようとしている。 ・食品や調理用具等の安全と衛生に配慮し、調理実習で実践しようとしている。	・基礎的な日常食の調理について、調理に必要な手順や時間を考えて計画したり、食品の調理上の性質を生かした調理を工夫したりしている。	・調理の目的や食材に合った基本的な調理操作ができる。 ・洗い方 ・切り方 ・加熱調理（煮る・焼く・炒める） ・調味 ・盛りつけ ・配膳 ・後片付け ・安全と衛生に留意し、食品の適切な管理ができる。 ・魚や肉などの生の食品 ・ふきん・まな板・包丁などの調理器具 ・調理用熱源	・食品の調理上の性質について理解している。 ・加熱調理と調味の要点について理解している。 ・食品や調理器具の安全と衛生に留意した取り扱いについて理解している。
・地域の食文化を知ろう (4)	・地域の食材を生かした日常食などの調理を通して、地域の食文化に関心をもっている。			・地域の食文化の意義について理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

○ 日常食の調理をしよう <ul style="list-style-type: none"> ・ 班ごとに話し合いをして、1品付け合わせを決定する。その際、栄養面や彩り等を考慮して意見をまとめるようにする。 ・ 実習終了後お互いに試食を行ったり、出来上がりの写真を見たりしながら、味付けや栄養面についての相互評価を行う。良かったところと改善が必要など記入できるよう、2色の付箋を用意し記入する。記入したものを黒板に掲示した班ごとのカードに貼り、意見の交流を行う中で、思考力や知識の技術の定着を目指す。 ・ ペア調理を実施する。ペアで話し合いながら、調理の流れや手順を図や言葉でまとめる。調理後には、反省や感想の発表を行い、今後の実習の参考にできるように、ワークシートにまとめる。 ・ 野菜の切り方を、班での話し合いで決定する。 ○ 地域の食文化を知ろう <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元で採れる食材について、書籍やインターネット、地域の方にインタビューを行い調べ、特色をまとめる。その後、班ごとに具材を検討し、けんちん汁の調理実習を行う。
--

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名 ※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	○○期の食事を探ろう 見直そう！健康生活	(6時間扱い)
	・食生活を取り巻く問題を把握しよう ・自分の食生活をよりよくする方法を考えよう ・自分や家族の食生活の改善点や課題を見付けよう ・課題解決を目指す方法を考えよう ・各自で実践したことをまとめ、発表しよう	

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

B(3)ウ	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
	日常食の調理と地域の食文化について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をより良くするために実践しようとしている。	日常食の調理と地域の食文化について課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食文化の意義について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・食生活を取り巻く問題を把握しよう ・自分の食生活をよりよくする方法を考えよう (3)	・身近な食事について知ること、自分や家族の食生活をよりよくすることに関心をもっている。			・身近な日常食について理解している。
・自分や家族の食生活の改善点や課題を見付けよう ・課題解決を目指す方法を考えよう ・各自で実践したことをまとめ、発表しよう (3)	・日朝食に関心を持ち、調理技術を習得しようとしている。 ・自分や家族の食生活をよりよくすることに関心を持ち、課題を主体的に捉え、日常食の計画と実践に取り組もうとしている。	・基本的な日常食の調理について、調理に必要な手順や時間を考えて計画したり、調理上の性質を生かした調理をしたりするなどの工夫ができる。 ・日常食の実践の成果と課題についてまとめた発表したりしている。	・調理の目的や食材にあった基本的な調理操作ができる。 ・安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができる。	・食品の調理上の性質について理解している。 ・加熱調理と調味の要点について理解している。 ・食品や調理用具の安全と衛生に留意した使い方について理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

○ ○○期の食事を探ろう <ul style="list-style-type: none"> ・ 受験やスポーツ（部活動）等のテーマを決め、それをもとに自分の食生活を振り返る。 ・ それぞれの場面ではどのような栄養が必要か知った上で、自分にはどのような食生活が良いのかを考えさせる。 ・ テーマごとに3～4人のグループを作り、どのような食生活が良いのか発表し合い、理解を深める。 ○ 見直そう！健康生活 <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近なインスタント食品の塩分量や熱量をクイズ形式で知らせ、バランス良い食事について興味関心をもたせる。

- ・ 自分の日常食をふり返り，バランスの良い食事の具体的な量を理解させる。その後 3～4 人程度のグループで意見を交換し合い，不足しがちな栄養のプラス一品料理を考えさせる。
- ・ 実際に考えた調理を行い，家庭での日常食の実戦に向け，課題をまとめたり，発表したりする。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	簡単おしゃれ！衣生活		
※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	（ 7時間扱い）		
	・着る目的を考えよう	・衣服の計画的な活用方法を考えよう	・必要な衣服を選択しよう
	・衣服の手入れをしよう	・よりよい衣生活を目指そう	

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
C (1) ア, イ, ウ	衣服の着用, 選択, 手入れについて関心をもって学習活動に取り組み, 衣生活をよりよくしようとしている。	衣服の着用, 選択, 手入れについて課題を見付け, その解決を目指して工夫している。	衣服の着用, 選択, 手入れに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	衣服の着用, 選択, 手入れについて理解し, 基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は, 3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・着る目的を考えよう ・衣服の計画的な活用方法を考えよう (1)	・衣服と社会生活とのかかわりに関心を持ち, 時・場所・場合に合った衣服を着用しようとしている。	・目的に応じた着用や個性を生かす着用について考え, 工夫している。		・衣服の社会生活上の機能について理解している。
・必要な衣服を選択しよう (2)		・目的に応じた衣服の適切な選択について, 収集・整理した情報を活用して考え, 工夫している。	・既製服を選択するために必要な情報を収集 ・整理することができる。	・衣服の計画的な活用の必要性を理解している。 ・既製服の表示と選択に当たっての留意事項について理解している。
・衣服の手入れをしよう (4)	・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れに関心を持ち, 洗濯や補修の課題に取り組もうとしている。	・衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修について考え, 工夫している。	・衣服の材料や汚れ方に応じた方法で日常着の洗濯ができる。 ・補修の目的と布地に適した方法で衣服を補修することができる。	・洗濯の要点と方法について理解している。 ・衣服材料の手入れに関わる性質 ・洗剤の働きと種類 ・電気洗濯機を用いた洗濯の特徴 ・汚れ方に応じた洗い方 ・補修の目的と布地に適した方法について理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

○ 衣服の計画的な活用方法
・ 絵が苦手な生徒や文章表現が苦手な生徒にも表現できるように絵や写真, 雑誌の切り抜きなどで表現する。
・ それぞれの工夫点を発表することで自分に生かせるようにする。
・ 必要な衣服の選択
・ いくつかの衣服を準備し, 目的別に選択する。選択理由を考え, それを話し合うことにより, 目的別に選択が変化してくることに気付かせる。
○ 衣服の手入れ
・ 練習用布を準備し, 練習する。教科書や資料集を見ながらまずはやってみて, 生徒同士, 練習用布を見本と比較したり, 話し合わせたりしながらやり方やポイントの確認をする。教師は, 能率よいやり方を机間指導しながら押さえていく。
・ 実生活の中で手入れが必要なものを各自準備し, 手入れを行う。手入れの種類で班分けを行い, 各班で確認しながら行う。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名 ※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	安全安心！住生活
	(6 時間扱い)
	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの役割とは何だろう ・家族と住まいのかかわりを考えよう ・安全に住むためにはどうしたらよいだろう（家庭内自己とその原因，安全に住むための改善方法） ・健康で快適な室内空間を考えよう ・よりよい住生活を目指そう

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
C (2) ア, イ	安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について関心をもって学習活動に取り組み，住生活をよりよくしようとしている。	安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について課題を見付け，その解決を目指して工夫している。		住居の機能について理解し，安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は，3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの役割とは何だろう ・家族と住まいのかかわりを考えよう (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の住空間と生活行為との関わりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・住居の基本的な機能について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・安全に住むためにはどうしたらよいだろう（家庭内自己とその原因，安全に住むための改善方法） ・健康で快適な室内空間を考えよう ・よりよい住生活を目指そう (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な室内環境に関心をもち，整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・室内環境について課題を見付け，調査・観察・実験などを通して，安全で快適な整え方住まい方について考え，工夫している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解している。 ・家庭内事故の防止や自然災害への備え ・室内の空気調節 ・音と生活との関わり

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ・モデルのルームを取り上げて，快適な住まいについて話し合う。 ・快適な住まいについては，「一人暮らしのアパート探し」や「家族で暮らすマイホーム」など実生活をイメージして住まいの条件を考える。「住まいの広さ」「防音効果」「住まい環境の利便性」「住まいの日当たり」など全部条件を揃えるのは，実生活で難しい。何を重視するかは住む人によって違うので，「住む人が主役」としてグループエンカウンターを用いて話し合い活動を行う。生徒一人一人価値観が違って，何を重視するか優先順位を出し合って話し合い活動が充実できる。
--

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名 ※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	災害対策万全に！ (3 時間扱い)
	・地震対策体験レポートをつくろう ・災害に備えた住まい方の工夫について考えよう

1. 評価規準に盛り込むべき事項 (※国立教育政策研究所の冊子から転記する。)

C (3) イ	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
	衣生活、住生活などの生活の工夫について関心をもち、布を用いた物の製作などに取り組み、衣生活又は住生活を豊かにするために実践しようとしている。	衣生活、住生活などの生活の工夫について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	布を用いた物の製作や、衣生活、住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	衣生活、住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例 (※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。)

・地震対策体験レポートをつくろう (2)	・自分や家族の体験から学んだことと、既習した内容から現在の改善点や課題について、調査などの計画や実践に取り組もうとしている。	・製作や調査などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。		
・災害に備えた住まい方の工夫について考えよう (1)	・自分や家族の住生活をよりよくすることに関心をもち、課題を主体的に捉え、製作や調査などの計画と実践に取り組もうとしている。	・自分や家族の住生活の万全な災害対策について課題を見付け、その解決を目指して製作や調査などの計画を自分なりに工夫している。		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て (言語活動など)

・ 家族にインタビューを行ったり、ハウスメーカーやホームセンターなど専門的な知識をもっている人などから話を聞いたり、地震対策となる物の製作の工程表を作成したりして、レポートにまとめ発表する。 ・ よりよい住生活を送るために、考えたり、実践したりした地震対策について、家族に報告を行い、家族と一緒に今後の取り組みについて考えをまとめる。
--

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名 ※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	私のために、あなたのために
	(10 時間扱い)

・生活を豊かにするための工夫をしよう

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
C(3)ア	衣生活、住生活などの生活に工夫について関心をもち、布を用いた物の製作などに取り組み、衣生活又は住生活を豊かにするために実践しようとしている。	衣生活、住生活などの生活の工夫について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	布を用いた物の製作や衣生活、住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	衣生活、住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

生活を豊かにするための工夫をしよう ～計画～ (2)	・自分や家族の衣生活または住生活をよりよくすることに関心をもち、製作の計画に取り組んでいる。	・自分や家族の衣生活又は住生活をよりよくすることを旨として、製作の計画を工夫している。 ・自分や家族の生活を振り返り、生活を豊かにするために工夫を凝らした製作計画を立てている。		・布を用いた物の製作に関する知識を身に付けている。 ・材料と用具の選択 ・製作手順 ・目的に応じた縫い方 ・用具の安全な取り扱い
生活を豊かにするための工夫をしよう ～製作～ (7)	・布を用いた物の製作に関心をもち、自分や家族の生活を豊かにしようとしている。		・安全で効率よく、布を用いた物の製作をすることができる。 ・目的や素材に応じた縫い方ができる。	
生活を豊かにするための工夫をしよう ～発表会～ (1)	・布を用いた物の具体的な活用場面を考え、製作した物を生活の中で生かそうとしている。	・製作した物を活用することが、どのように生活を豊かにするかを考えることができる。		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

- ・ 製作する物を決定する場面において、自分の考えを発表したり友達の見意見を聞いたりすることを通して、生活を豊かにするという多様さに気づき、自分の生活をより豊かにする方法を考えられるようにする。
- ・ 製作した物を活用する場面を具体的に考えることを通して、製作した物を活用したり活用してもらったりすることの喜びや、物を大切にすることの重要性に気付くことができる。

技術・家庭科（ 分野）評価規準表

所属： _____

氏名： _____

題材名	(時間扱い)
※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	

1. 評価規準に盛り込むべき事項 (※国立教育政策研究所の冊子から転記する。)

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
※指導要領内容項を記入				

2. 学習内容及び評価規準の設定例 (※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。)

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て (言語活動など)

※この枠には下記の本年度の研究の重点をどのように実現するのか書いてください。

②言語活動の充実を通して、生活や社会との関わりを考えさせる指導の工夫

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	暮らし安全！消費生活 (10 時間扱い)
※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	<ul style="list-style-type: none"> ・かしこい消費者になろう。 ・生活と環境のかかわりについて考えよう。

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
D (1) ア, イ	家庭生活と消費について関心をもって学習し、活動に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。	家庭生活と消費について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	家庭生活と消費に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭生活と消費について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。
D (2) ア	環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活を実践しようとしている。	環境に配慮した消費生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。		消費生活と環境とのかかわりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・かしこい消費者になろう。 (7)	・自分や家族の消費生活について関心を持ち、消費のあり方を改善しようとしている。			・消費者の基本的な権利と責任、消費者基本法の趣旨について理解している。
	・身近な販売方法に関心を持ち、その利点と問題点について考えようとしている。	・収集・整理した情報を活用して物資・サービスの選択、購入及び活用について考え、工夫している。	・物資・サービスの選択、購入及び活用について必要な情報を収集整理することができる。	・中学生に関わりの深い販売方法の特徴や物資・サービスの選択、購入及び活用に関する知識を身に付けている。
・生活と環境のかかわりについて考えよう。 (3)	・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について関心を持ち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。	・自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり、実践を通して自分なりに工夫したりしている。		・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解している。 ・環境に配慮した消費生活に関する知識を身に付けている。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ・消費行動における「意志決定プロセス」に沿って、商品の購入をシミュレーションし、考えをまとめさせる。 ・消費者にかかわるトラブル(悪質商法)等について、ロールプレイングを行い、その中からの意見交換を実施する。 ・茨城県消費生活センター「大好きいばらき 安全・安心 暮らしのセミナー」事業を活用して、消費者としての意識を高める。(GTの派遣) ・節約生活のための裏技を調べて、実践したり、エコポスターを作成したりして、校内掲示等で発表する。 ・循環型社会を目指し、「環境アクションプラン」をもとに、行動目標立案のための討論会を実施する。 (ジグゾー学習の利用)

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名 ※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	家族最高！ <p style="text-align: center;">(4時間扱い)</p>
	・家庭や家族の機能，地域とのかかわりを考えよう ・家族関係をよりよくしていこう

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

A (2) アイ	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
	家庭と家族関係について関心をもって学習活動に取り組み，家庭生活をよりよくしようとしている。	家庭と家族関係について課題を見付け，その解決を目指して工夫している。		家庭や家族の基本的な機能，家庭生活と地域との関わりについて理解している。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は，3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・家庭や家族の機能，地域とのかかわりを考えよう (2)	・家庭生活と地域との関わりに関心を持ち，地域の人々との関わりについて話し合うことなどを通して，地域の人々とのつながりの大切さに気付いている。			・家庭や家族の基本的な機能について理解している。 ・家庭生活が地域の人々とのつながりの中で成り立っていることを理解している。
・家族関係をよりよくしていこう。 (2)	・これからの自分と家族との関わりに関心を持ち，家族関係をよりよくするためにできることを実践しようとしている。	・自分の生活や事例の家族について課題を見付け，家族関係をよりよくする方法について考え，工夫している。		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> 家庭や家族の機能についてまとめたり，地域の活動，環境美化や伝統的な行事などを書き出したりすることで，周りの人々と協力し合いながら支えあって生活していくためには，自分には何ができるのか考え，文や表などにまとめ，理解を深められるようにする。 家族生活のいくつかの場面をロールプレイングで演じ，会話のやり取りを振り返る活動から，相手の立場や気持ちを理解できるようにする。

題材名 ※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	応援します！幼児の生活 (13.5時間扱い)
	<ul style="list-style-type: none"> ・成長を振り返ろう（自分の成長記録） ・幼いころを振り返ろう（成長記録をもとに、幼いころの夢やエピソードをまとめる、かかわった人とのイメージマップづくり） ・幼児の心身の発達と生活を考えよう（心身の発達の特徴、家族の役割、生活習慣） ・幼児の生活と遊びを知ろう（遊びの意義、育つ力、遊び道具や場所、遊び道具の製作） ・幼児と触れ合おう（幼稚園、保育所訪問） ・子どもにとっての家族を考えよう

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

A (3) ア, イ, ウ	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
	幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組み、家族又は幼児の生活をよりよくするために実践しようとしている。	幼児の生活と家族について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	幼児の生活と家族について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

<ul style="list-style-type: none"> ・成長を振り返ろう ・幼いころを振り返ろう ・幼児の心身の発達と生活を考えよう ・幼児の心身の発達と生活を考えよう <p style="text-align: center;">(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の幼いころをさまざまな視点から振り返ろうとしている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の心身の発達の特徴について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の生活と遊びを知ろう <p style="text-align: center;">(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児に関心をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について考え工夫している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとっての遊びの意義について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児と触れ合おう <p style="text-align: center;">(4.5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児と触れ合う活動などを通して、幼児に関心をもち、適切に関わろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の心身の発達に応じた関わり方について、観察したことを生かして考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の遊びや幼児の発達と家族との関わりなどについて、観点に基づいて観察し、整理することができる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとっての家族を考えよう <p style="text-align: center;">(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族又は幼児の生活をよりよくすることに心をもち、課題を主体的に捉え、製作や幼児と触れ合う活動などの計画と実践に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作や幼児と触れ合う活動などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。 		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の心身の発達の学習の知識を十分に生かし、幼児と積極的に触れ合う。 ・幼児触れ合い体験を、個人ではレポートに、園ごとに模造紙にまとめる。 ・発表会を行い、他の園に行った人たちの体験を聴く。そこで体験に関しての意見を出し合い、体験を深める。 ・幼児の関わり方を、学習や体験から学んだことを生かしてまとめる。
